

小豆島の花と緑で小学生が収穫体験とフラワーアレンジメントに挑戦

▼発生年月日：2023/3/15

▼執筆者名：藤田 則久、濱口 政也

▼センター名：小豆農業改良普及センター

▼部門分類：花き

▼活動分類：食農業教育・食育

▼公開：公開

▼備考：

▼本文

1) 3月15日、小豆島町立池田小学校の4年生14名が、ラナンキュラスの収穫体験と、その花を使った「フラワーアレンジメント」の作成と、卒業生に贈る「花束づくり」に挑戦しました。

これは、JA小豆青壮年部と普及センターが合同で開催する「花育教室」の一環で、新型コロナウイルス感染症の影響で収穫体験等は3年ぶりの開催となりました。(ラナンキュラスを使った卒業生への花束贈呈は青壮年部が中心となり継続、今回で8回目。)

2) まず、はじめに、生産者の八木清文氏のハウスへ集合し、普及センターからラナンキュラスの名前の由来や簡単な栽培方法、県で育成された品種「てまりシリーズ」について説明をしました。その後児童は、「小春てまり」や「ゆずてまり」などの様々な色の花を楽しそうに選び、各自5本を収穫しました。

3) 収穫後は、学校に移動し、各自収穫したラナンキュラスと、小豆島産のミニティアラ(カーネーション)やオリーブの小枝などを組み合わせて、フラワーアレンジメントに挑戦しました。

児童らは、青壮年部の会員や島内生花店オーナーの講師から「お花の正面はどこか? お花を少し回しながら確認して。」などのアドバイス受け、籠に入れた吸水スポンジにカラフルなラナンキュラス等を思い思いに挿した後、オリーブやカスミソウなどを足していき、仕上がりは同じ材料を使ったとは思えないほどの様々できれいな作品が出来上がりました。

その後、生産者があらかじめ収穫していた5本を使って、卒業生のための花束も作成し、17日の卒業式には感謝の気持ちを込めて、4年生から6年生に贈られました。

参加した児童からは「花の向きに気を付けて作った」、「花束は、一緒に過ごした池田小学校を忘れないで! という気持ちで渡したい。」との感想がありました。

4) 完成したフラワーアレンジメントは、保護者と一緒に楽しんでもらえるよう、自宅に持ち帰ってもらいました。

ラナンキュラスは、島内の産直や生花店でも販売されていることから、この花の知名度がさらに高まり、地元での需要がより増加することを期待しています。

5) 島内のラナンキュラスは、平成25年度に小豆島町の2戸の花き栽培農家で試験栽培が始まり、令和4年度には小豆島町と土庄町合わせて4戸で約20a栽培されています。

普及センターでは、今後も花育を推進するとともに管内を代表するキクの補完作物として、生産振興に取り組みます。



収穫体験



アレンジメントに挑戦



卒業生用花束づくり